



「炭鉄港」日本遺産認定記念フォーラム
まちの記憶を明日へつなぐ

講演1

小樽をもっと“つないで活かす”
～まちの物語を活かしてこそその日本遺産

駒木定正

北海道職業能力開発大学 特別顧問
博士(工学)

講演2

産業遺産活用の取組み

～日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を事例に～

和田幸司

朝来市 市長公室 総合政策課 副課長

パネルディスカッション

「炭鉄港」は終わらない

吉岡宏高

NPO法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長

高野宏康

小樽商科大学

グローバル戦略推進センター地域経済研究部
学術研究員 博士(歴史民俗資料学)

駒木定正

和田幸司



日時

2020年2月16日(日)
15:30～17:30

入場
無料

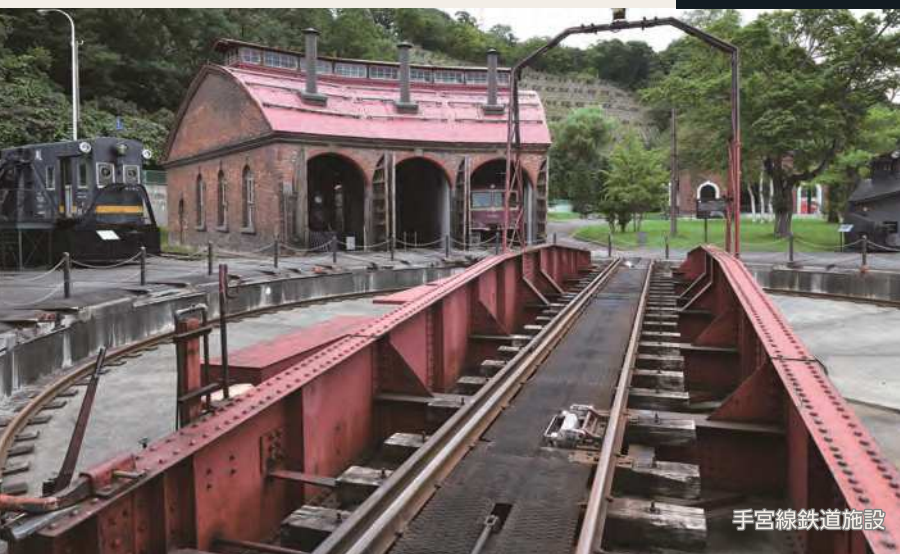
会場

小樽市民センター「マリンホール」
小樽市色内2丁目13番5号



令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

参加申込みの詳細は裏面をご覧ください



手宮線鉄道施設

開拓使が設置された1869年からわずか150年という短い期間で、5万人弱だった人口が100倍に増え、豊かな社会を達成した北海道。その歴史をひも解くと、空知(石炭)、室蘭(鉄鋼)、小樽(港湾)とそれらをつなぐ鉄道を舞台に繰り広げられた、産業革命の物語(ストーリー)が見えてきます。この『本邦国策を北海道に観よ!~北の産業革命「炭鉄港」~』のストーリーは、令和元年5月20日に、日本遺産に認定されました。

日本遺産は認定されて終わりではなく、ストーリーを発信し、活用することが求められています。「炭鉄港」の特徴の一つは、ストーリーを彩る資源の多くが残されていること。「小樽港北防波堤」「北炭ローダー基礎」と「色内銀行街」いった港湾関連施設や街並み、「手宮線跡及び付属施設」「旧手宮鉄道施設」、ガンガン部隊の拠点となった「小樽中央市場」の鉄道関連施設も構成文化財です。まちにのこる施設や文化、そして人々の記憶。こうした有形無形の宝物を活用し、まちづくりや観光振興などにどのようにどうつなげていくか。

そのためには「炭鉄港」のストーリーをさらに掘り起こして発展させていくとともに、多くの人々がまちの宝物を活用した活動に参加することで、より高い効果を期待することができます。

また、小樽は日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間~北前船寄港地・船主集落~」の構成自治体の一つであり、小樽単独の日本遺産も現在申請しています。

こうした日本遺産の機運を高める活動の一つとして「炭鉄港」のフォーラムを開催いたします。ぜひ、会場に足をお運びください。

開催概要

日時 2020年2月16日(日) 15:30~17:30

会場 小樽市民センター「マリホール」 **入場** 無料

お申し込み

参加ご希望の方は下に必要事項をご記入の上、FAXかメールでお申し込みください。

FAXの場合 下記に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

小樽市会場

お名前:	参加人数:	名
お電話番号(固定・携帯どちらでも可):		

FAX送信先 **011-232-4918**(株式会社ノーザンクロス)

メールの場合 お名前、参加人数、お電話番号、「小樽市」会場への参加希望を明記して下記のアドレスへお送りください。

ida@northerncross.co.jp

*お申込みいただかなくてもご入場いただけますが、定員になった場合はご参加いただけない場合もあります